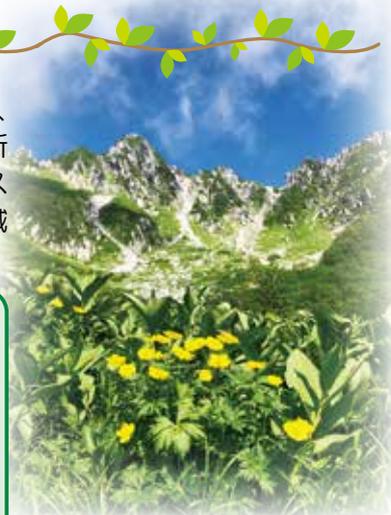


Report

信州自然講座 を開催

本年度は、2020年3月に国定公園に指定された中央アルプスをテーマとして、駒ヶ根市で開催しました。中央アルプスの自然環境や地域で活動する団体、研究所の研究発表、意見交換会と盛り沢山の内容でした。本年度は、新型コロナウイルス感染防止対策として、県内在住の方限定（事前申込み）にしましたが、上伊那地域を中心に、県内各地から多くのご参加をいただきました。



テーマは中央アルプス

2020年11月21日(土)13:00~16:00 / 駒ヶ根市地域交流センター(赤穂公民館)

テーマ：中央アルプスがはぐくむ自然とその保全 参加者：59名

- 講演
- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 中央アルプス国定公園の紹介 | (自然保護課 遠山貴士) |
| 2. 中央アルプスにおける気候変動 | (浜田 崇) |
| 3. 中央アルプスにおけるライチョウの生息環境 | (堀田昌伸) |
| 4. 中央アルプスの高山植物と環境変動 | (尾関雅章) |
| 5. 上伊那の昆虫食 | (浦山佳恵) |

新型コロナウイルス感染防止対策
 ①県内在住者限定
 ②座席間隔
 ③マスク着用
 ④検温・手指消毒

○ポスター3分間発表

1. 伊那谷森と人を結ぶ協議会 稲邊謙次郎さん
2. ハッチョウトンボを育む会 吉田保晴さん
3. ミヤマシジミ研究会 中村寛志さん

伊那谷での自然保護活動について、ポスターの紹介をしていただきました。これらは、自然環境の保全を通じて地域振興を図ろうとする内容で、関心をもって聞いていただけたことがアンケートからも伺えました。

* 例年、ご好評いただいているポスター前での議論は、新型コロナウイルス感染防止対策のため行いませんでした。

4. 昆虫食文化の社会的基盤とその変容～長野県伊那市を事例に 小林直樹さん(金沢大学)
5. 環境保全研究所の研究紹介

- ①水・土壌環境部(柳町信吾)「諏訪湖の底泥の環境はどう変化しているのか～底質性状の実態と40年前の調査との比較」
- ②大気環境部(池田友洋)「有害大気汚染物質の調査結果について」
- ③循環型社会部(小口文子)「ヘッドスペース法による最終処分場浸出水等の硫化物簡易測定」
- ④食品・生活衛生部(小山和志)「残留農薬検査状況について」
- ⑤自然環境部(栗林正俊)「信州カラマツの炭素収支の気候変動応答と森林管理の効果の評価」

意見交換会では、高山植物やライチョウの他、果樹など身近なものへの気候変動影響や近年の大雨へのご心配、クマの生息と洪水との関係についての質問など、興味深い多様なご意見が出されました。

ウィズコロナ/ポストコロナ時代にどのような講座を開催していくのかは模索中ですが、来年度に向けて準備を進めてまいります。今年の難しい状況の中、講座の開催に多大なご協力をいただいた駒ヶ根市、またご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。(担当：葉田野 希・尾関 雅章・高野 宏平)



意見交換会



講演会場



盛況だったポスター会場

▶ 講演 県環境部自然保護課から中央アルプス国定公園の紹介があり、つづいて、環境保全研究所の様々な専門分野の研究員が、中央アルプスやその周辺で行っている研究の成果を発表しました。



浜田崇【気候・気象担当】

中央アルプ스에서 일어나고 있는 **기후 변동**을 積雪や雪融け時期、紅葉の色づきの变化から紹介。適応策についても。



堀田昌伸【鳥類生態担当】

中央アルプ스에서는 保護活動も 行われている 県の鳥 **라이초우**。その生息域の将来予測の研究成果などを紹介。



尾関雅章【高山生態担当】

東アジア地域でも特に貴重とされる中央アルプ스의 **高山植物**と、その気候変動による影響について紹介。



浦山佳恵【人文社会担当】

伊那谷に伝わる **昆虫食文化**について紹介。ざざむしのイラスト付きのフェイスカバーで感染防止対策。



遠山貴士【県自然保護課】

本年度、国定公園に指定された中央アルプスとその魅力を紹介。